

< 課題 >

◎ 水質管理の強化

より良質な水道水質を確保するために、水質事故発生時の対応強化、水質検査業務の効率化、調査研究と人材育成の充実などが課題となっています。

◎ 水道施設の効率的な更新

適切な施設規模へのダウンサイジング、老朽化した基幹施設の更新、耐震化等、水道施設の機能強化を踏まえた効率的な更新が課題となっています。

◎ 環境負荷の低減

河川の上流から優先的に取水するなど、電力エネルギーを極力消費しない環境に配慮した事業運営が課題となっています。

< 基本的方向性 >

安心

水道水の品質管理水準をさらに向上させます

安定

水道施設のバックアップ機能の向上を図ります

持続

水道施設の統廃合による再構築と水道技術の強化を図ります

環境

上流取水によるエネルギー消費量の削減に努めます

国際

諸外国の水道事業に対する国際貢献を進めます

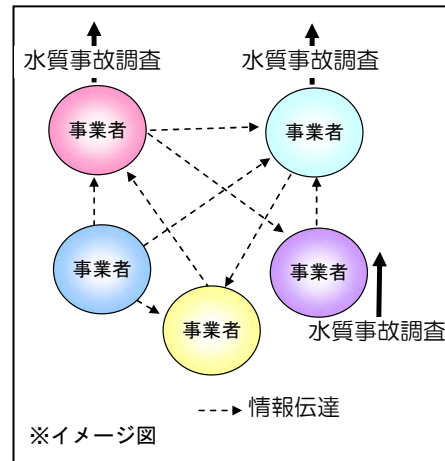
5事業者が共同して進める取組

< 具体的な取組 >

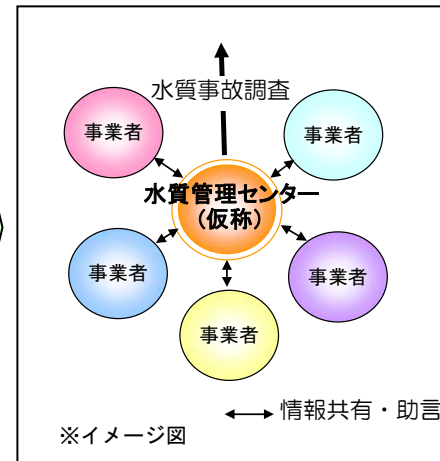
I 水質事故時の対応の強化及び水道水質の更なる改善

「ワンランク上の水道水質管理」を実現できる水質関連業務の拠点となる水質管理センター（仮称）の早期設置を進めていきます。

各事業者で対応（現状）

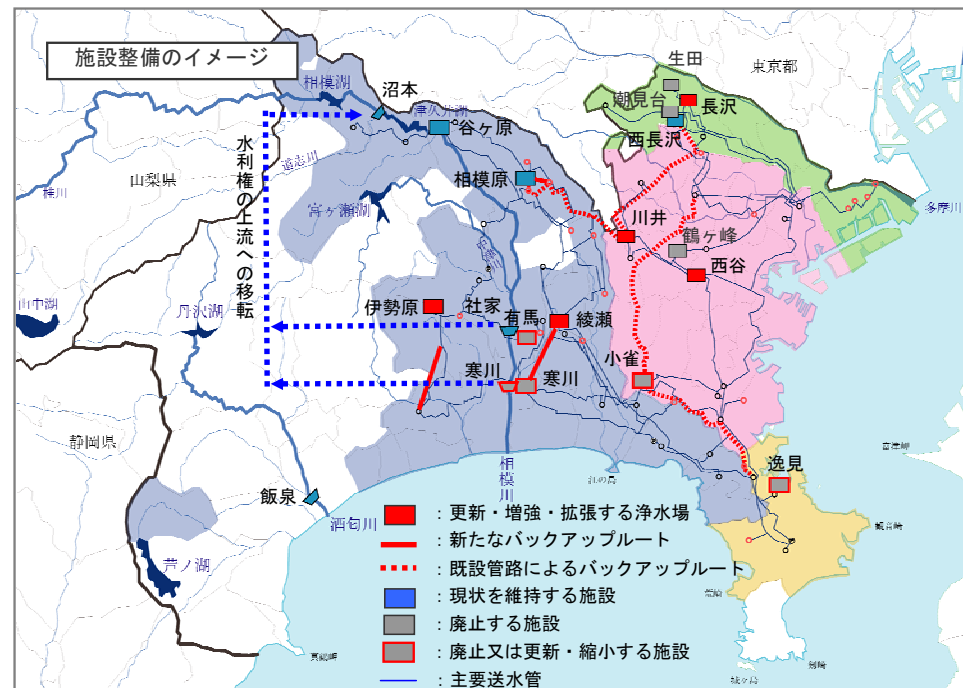


水質管理センター（仮称）を設置



II 水道施設の共通化・広域化

浄水場の統廃合（15箇所から8~9箇所へ）により、将来の水需要に合わせた適正な規模への縮小や、事故・災害時にバックアップが可能な施設配置、CO₂排出量の削減を目指した上流取水など、5事業者の水道システムの再構築を図っていきます。



< 目指すべき将来像 >

- ◎ 水道水の安心・安定供給の継続
- ◎ 環境に配慮した水道事業の展開
- ◎ 技術力を活かした国際貢献

< 効果 >

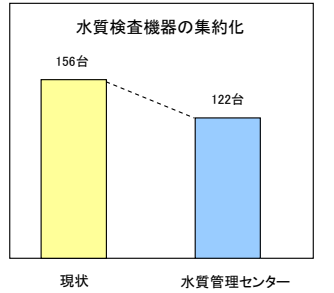
I 水質管理センター（仮称）設置による効果

安心 水源監視体制の強化

水質関連情報が水質管理センター（仮称）に集中し、各事業者のリアルタイムな情報共有が可能になります。

持続 水質検査業務の効率化

精密検査を水質管理センター（仮称）に集約することで、業務の効率化とコスト削減が図られます。（約20%の台数削減と、年間約1億円の経費削減（試算））



安心・持続 調査研究・人材育成の強化

調査研究部門の設置・産学官の連携強化により、集中的な調査研究、職員のスキルアップ、次世代を担う人材育成が可能となります。

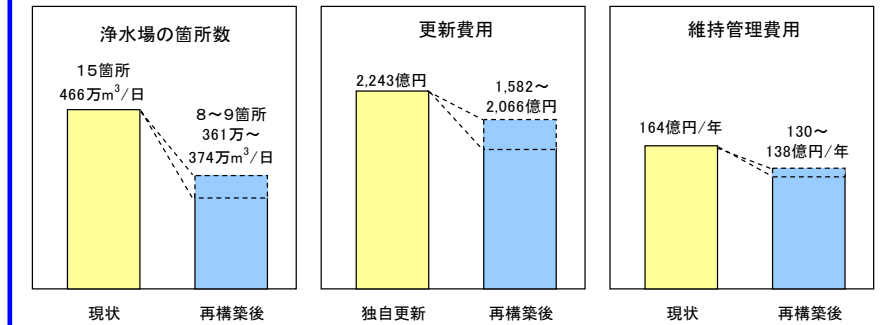
国際 国際協力の推進

各事業者の持つ豊富な国際協力のノウハウを統合し、海外研修生を積極的に受入れ技術供与することで、国際貢献が図られます。

II 水道施設の共通化・広域化の効果

持続 浄水場の統廃合によるダウンサイジング

浄水場の箇所数、施設能力を削減して、適切な供給能力にダウンサイジングすることにより、施設整備費、維持管理費の削減が可能となります。



安定 水道システムの再構築によるバックアップ機能の向上

浄水場の統廃合やそれに伴う新たな送水ルート整備など、水道システムを再構築することにより、施設能力のダウンサイジングを図る一方で、バックアップ機能を90%から98%に向上させることが可能となります。

環境 上流取水等によるCO₂排出量の削減

需要が減少することと、約40万m³/日程度の水量を上流からの取水に切替えることにより、CO₂排出量を削減して環境負荷の低減が可能となります。

※ CO₂削減率は、浄水場の取水から送水工程までを試算したものであり、配水過程で消費する電力量は原則として考慮していません。

